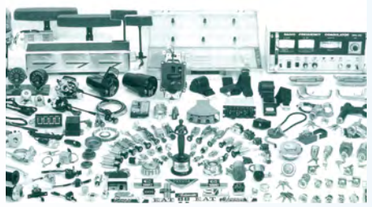
東海理化の 成長戦略

当社は、クルマの変化に伴い、自らの技術を磨き続け、常に人とクルマをつなぐ製品を提供してきました。
これからは、これまで培ってきた強みを活かし、クルマという概念から拡大した「モビリティ」の分野に対応した製品・サービスの開発を進めるとともに、クルマやモビリティ以外の分野において、技術の「進化」そして「深化」を追求することで、「モノ」だけでなく「コト」への幅を広げ、さらにはWell-Being、持続可能な社会の実現に貢献できる製品やサービスを開発・提案し、「モノ」と「コト」の融合をめざします。

TOKAI RIKA'S ORIGIN

東海理化の社名の由来



何でもやる、というDNA

東海理化電機製作所

東海理化のDNAは社名にも表れています。当社の正式名称は「東海理化電機製作所」といい、物理の「理」、化学の「化」、電気の「電」、機械の「機」という文字で構成され、「何でもやれる会社をめざしたい」という創業者の想いが込められています。

TOKAI RIKA'S PRESENT

東海理化の「今」

人とクルマをつなぐ製品を世に送り出してきた強み

スイッチの組立に留まらず、成型・プレス・鋳造・鍛造・金型・設備・半導体・電子組立・ソフトウェアを自ら手掛けることを通じて幅の広い固有技術を身に付けてきた当社は、クルマの変化にも対応し、メカトロニクス・電子化・ソフト化などを通じ、製品群を変化させてきました。

Vision

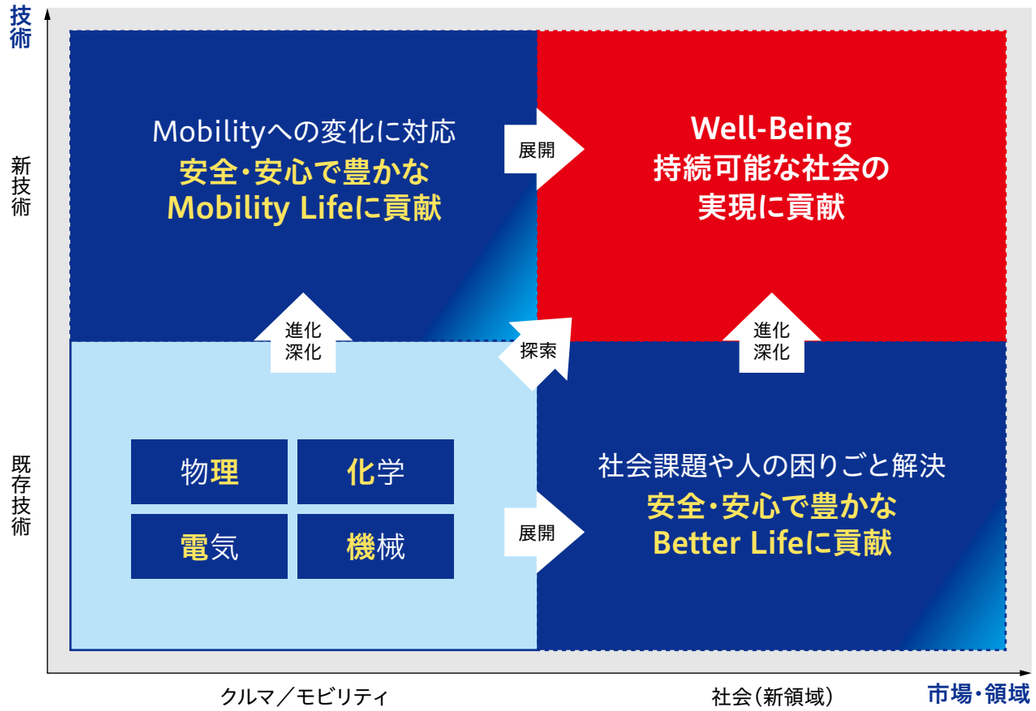
クルマで培った
「理・化・電・機」の技術を高め
人と社会・環境に役立つ
“製品”“サービス”を提供し、

安全・安心で豊かな社会の実現に貢献

TOKAI RIKA'S FUTURE

東海理化の「これから」

■東海理化の成長戦略



パーパス実現のための「最後のひと手間」

どんな最先端の技術やシステムでも、人の感覚とズレがあれば使いものになりません。技術の進化を社会に実装させるためには、そのズレを解消するための「最後のひと手間」が必要です。東海理化は、その「最後のひと手間」を担うことで、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

東海理化が実装した、世界初のデジタルアウターミラー

従来の光学ミラーに比べ、視界の拡大や悪天候時の視認性向上など、車両の安全性向上が期待できるデジタルアウターミラー。

その実用化のためには、カメラを車に搭載するための筐体（搭載設計）、雨や雪、霧などのあらゆる環境でカメラの機能を維持するための工夫が必要です。
私たちは、法規要件をクリアし、かつ、カメラの視界をあらゆる環境で確保し続けるための筐体（搭載）、レンズ、ヒーターによる最後のひと手間に取り組み、世界初のデジタルアウターミラー実現に貢献しました。

東海理化の 成長戦略

既存製品の取り組み

ソフトウェアの更新で機能を増やしたり高めたりするSDV※化などの、クルマ・コックピットの変化に対応する製品・サービスに付加価値がシフトしています。その一方で、コックピットが変化しても必要な既存製品を改良し供給し続ける会社がないと、クルマ・モビリティは完成しません。パーパス「創業の精神を継承し『技術の進化』と『人』をつなぎ、感動をかたちに」に基づき、東海理化は新たな付加価値への挑戦とともに、既存製品の改良・供給を両立させ、お客さま・ユーザーに貢献したいと考えています。

※SDV：ソフトウェア・デファインド・ビークルの略。

Comfort 快適を叶える

人の意思をクルマへ伝える、
ヒューマン・インタフェースシステム。

Security 安心で支える

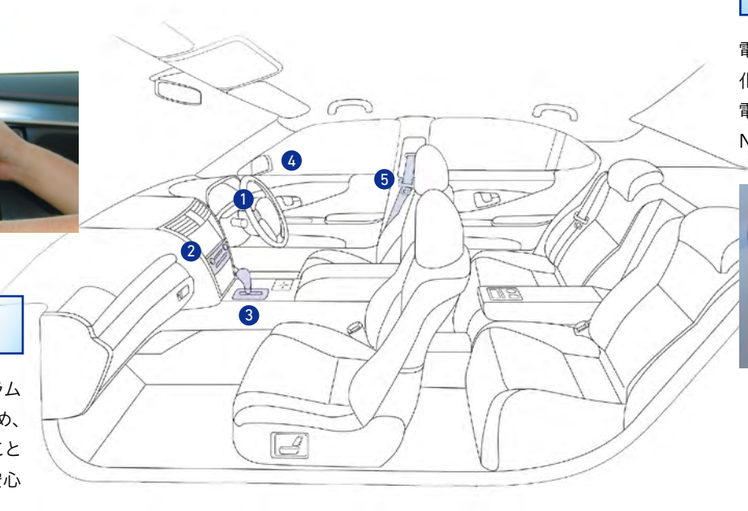
大切な財産、クルマを守る、
高度なセキュリティシステム。

Safety 安全を守る

クルマに乗る人の安全を守る、
信頼のセイフティシステム。

❶ コラム周りスイッチ

機能性と安全性の向上のため、インパネ、コンソールのスイッチ類などはコラムエリアに集約される方向に進化します。コラムエリアの最適な機能配置などの提案活動を行っています。



❸ シフトバイワイヤシフター

電気信号で変速機を操作する製品であり、従来のシフトレバーに比べ小型化やデザイン性を追求できる「シフトバイワイヤシフター」は、自動運転、電動化のトレンドにより、今後装着率が増加することが見込まれ、世界No.1シェアをめざします。

❷ ディスプレイ周りスイッチ

欧州の自主的な自動車安全性能評価プログラムであるEURO　NCAPより、安全性の確保のため、安全・走行に関わる機能では直接操作を残すことが提言されました。こうした声にこたえ、安全・安心なドライブに貢献する製品を供給し続けます。

❹ スマートシステム

デジタルキーに対応し、システムの構成品である携帯機、受信機、アンテナなどを含め開発・提案を行っていきます。

❺ シートベルト

安全確保の最後の砦であるシートベルトは、安全に対する要求の高まりや、コックピットの変化による、性能要求の変化に対応する開発・提案を行っています。

生産体制の整備

コックピットの変化によるスイッチ類の減少は想定より穏やかに推移すると同時に、ダイレクト操作の重要性が再評価されています。こうした環境下、既存製品の受注状況を踏まえ、重点地域を中心に生産・供給体制の整備を進めています。（日本・北米・インド）

日本

東海理化トウホク

北米

TRMX新工場

インド

TRMN新工場

東海理化の 成長戦略

安全・安心で豊かなMobility Lifeに貢献

Mobilityでの移動を、さらに安全・安心に、より豊かな時間にするため、これまでに培った技術をさらに昇華させ、くつろげる空間づくり、乗員の状態、感情、健康に寄り添う製品の開発をめざします。その象徴的な取り組みとして、インテリジェントコックピットの研究に取り組んでいます。

Mobility Life	Well-Being
既存製品	Better Life

従来のコックピット

次世代モビリティのコックピット

Mobilityへの変化に対応する新商品・サービスの開発・提案

「人を捉え、意思を読み取り、人に応える」製品をつくり続けます。

インテリジェントコックピットの開発コンセプト～開発者の想い～

新商品開発部

加藤 尚文

自動車のコックピットは、これまで移動のための安全・安心を追求することが中心でしたが、現在はそれだけではなく、より豊かな体験価値（UX）が求められるようになっています。単に目的地に到達する手段としての機能だけでなく、快適で心地よい空間、そして新しいライフスタイルを提供することが期待されています。今後、更にUXが重視されることが予想され、コックピットは乗る人のニーズに合わせて進化を遂げていく必要があります。

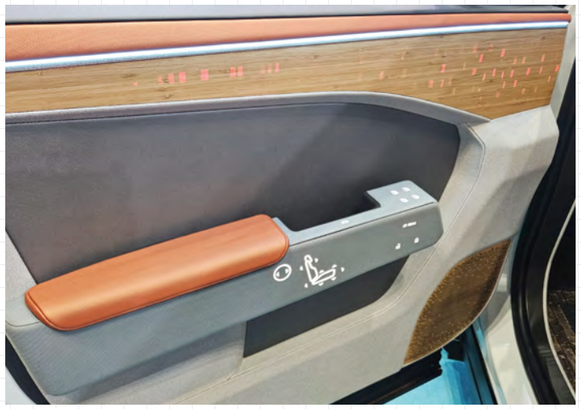
しかし、どれほど技術が進化しても、自動車を利用するのは「人間」であるという点は変わりません。人間の本質的なニーズを理解し、それに基づいたデザインや機能を提供することが、自動車の進化において重要です。

我々は常に「人間中心」でクルマ・モビリティを考え、ユーザーの期待や生活を豊かにする体験を提供できるよう注力してきました。技術だけでなく、乗る人の感性や使いやすさを捉える視点が今後ますます重要になると考えています。

こうした想いより、「人を捉え、意思を読み取り、人に応える」というコンセプトのもと、インテリジェントコックピットの開発に取り組んでいます。

最新のコックピットは、「安全で快適な運転環境を提供するとともに、社会とつながる空間を創出する」に重点を置き、「より豊かな体験価値（UX）を高めることで、自動車全体の価値向上」をめざしています。

この実現に向けて、私たちは「バイタルセンシング」、「感情推定」、「骨格検知」といった次世代技術の社会実装に注力し、さらなる進化を遂げていきます。

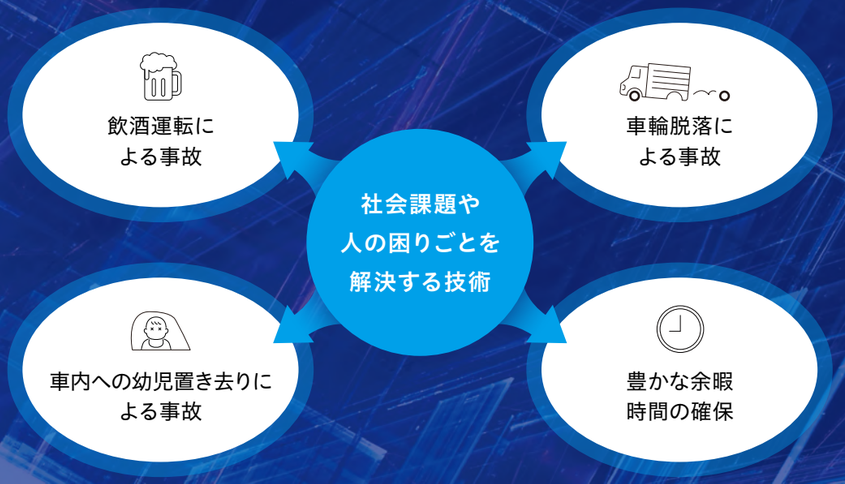


東海理化の 成長戦略

安全・安心で豊かなBetter Lifeに貢献

クルマで培った技術・経験を活かし、社会課題や人の困りごと解決をする製品、ソリューションを開発することで、より良い社会・人々の生活（Better Life）の実現をめざします。
まず人々の生活の「安全・安心」を最重要課題として取り組み、そのうえで、人それぞれの価値観や嗜好に合った「豊かな」時間・生活を追求します。

Mobility Life	Well-Being
既存製品	Better Life



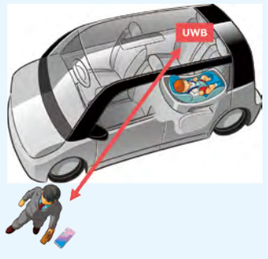
クルマで培った技術・経験を活かし、より良い社会・人々の生活の実現をめざします。

安全・安心

移動手段のみならず物流なども含め、クルマによって社会・人々の生活はより便利で快適になります。その一方で、飲酒運転・車輪脱落による事故、車内幼児置き去りによる事故などクルマによる悲しい事故も発生しているのも現実です。
これまで培った技術や経験をもとに新たな価値を生み出すことで、これからも社会の発展にとってなくてはならないクルマに起因する事故をなくし、誰もが「安全・安心」を享受できる社会の実現をめざします。

Bqey

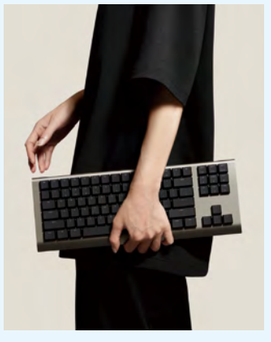
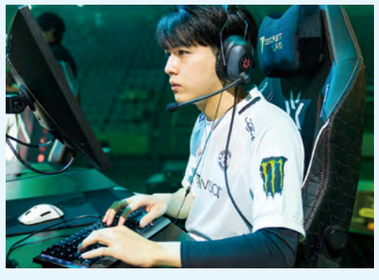
飲酒運転という長年の社会課題に対し、当社の社用車管理システムBqeyは、法人に対する出張時のアルコールチェック義務化に対応したサービスをいち早く導入しています。また、トラックの車輪脱落に伴う事故の増加という社会課題に対し、車輪脱落予兆を検知するシステムを開発し、現在、市場投入に向け準備を進めています。さらに、当社は通園バスの車内置き去り防止支援システムをいち早く供給してきましたが、今後は、個人所有のクルマにおける置き去り事故の撲滅にも取り組んでいきます。



豊か

少し遊び心をもって「安全・安心で豊かな」の「豊かな」の実現に向けて、今後増加が見込まれる自由行動時間をどう充実させるかをテーマにしたビジネスにも挑戦しています。

当社は、多様化する旅行・ツーリズムの分野で、デジタルキーを用いたレンタカー会社と利用者をつなぐサービス、「Uqey」を展開しています。
また、ゲーミングキーボード「ZENAIM KEYBOARD」の開発は、変わる東海理化を象徴する事業の一つです。
ゲーム好きの若手社員が、既存のゲーミングデバイスに対する不満や課題に対し、東海理化の技術と経験を使えば、この不満を解決できるのでは？と考えたのがスタートでした。
経営層などマネジメントは口を出さず、若手社員の熱意と行動力で実現した事業です。



Uqey